

第4回九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin鹿児島

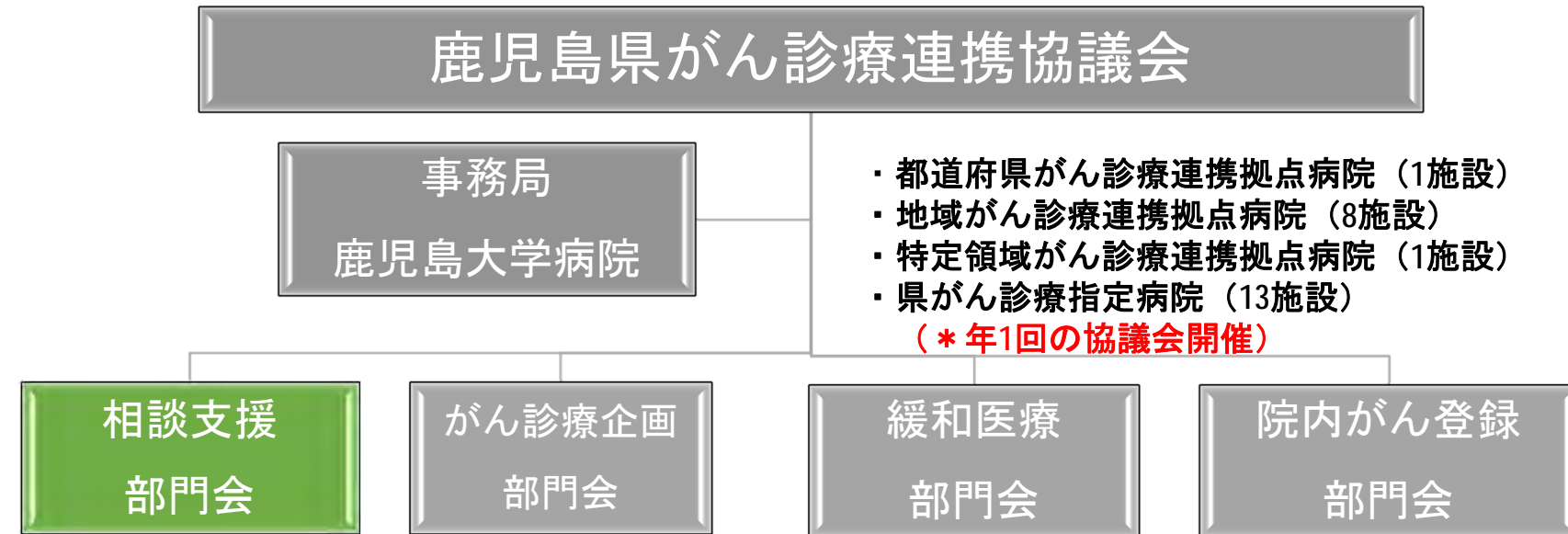
平成27年 鹿児島県 がん相談支援部門会の取り組み



平成27年11月28日（土）

○国立病院機構南九州病院 久永佳弘
鹿児島大学病院 田畑 真由美

☐ 相談支援部会の組織図



* H25年～4部門合同研修会を開催(各部門で持ち回りで研修を企画・運営)

* 平成24年11月～相談支援部会を設置 (研修・事例検討・議題)
メンバー構成：各拠点・指定病院がん相談員、県庁健康増進課
NPO法人がんサポートかごしま (患者会) (年に2回開催)

《相談支援部門会の目標》

- ◆ 相談員のスキルアップと部門会活動の促進
- ◆ 相談支援センターの院内・地域への周知・広報

□平成24年がん相談支援センターの業務体制及び成果等について

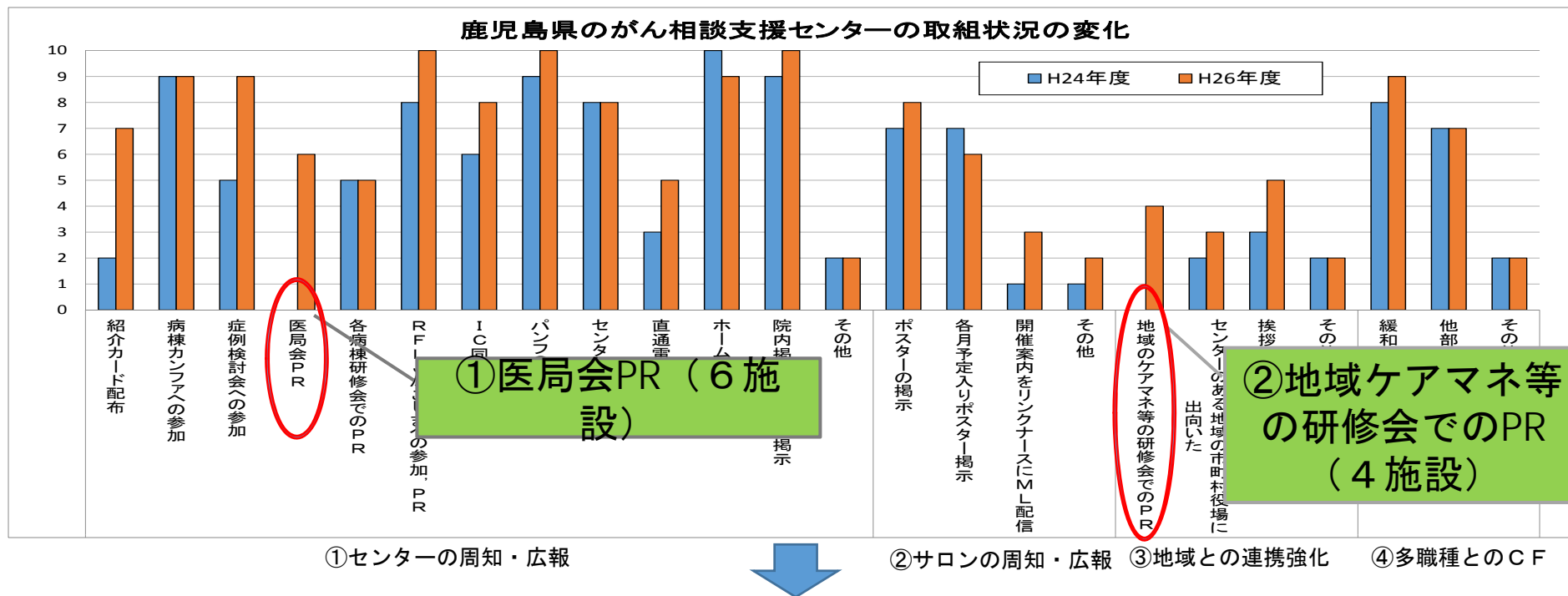
課題 (PLAN)	実践 (DO)	評価 (CHECK)
<p>①がん相談支援センターの周知・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内職員への周知 院外（患者さん等）への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 各外来（医師・看護師）への相談支援センター紹介カードの配布 病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加し、センターをPR 院内MLでの紹介カードのPR 医局会・外来会での医師・看護師への周知 各病棟研修会でがん相談員が相談対応していることをPR リレーフォーライフに参加し、相談支援センターのPR実施 がん告知、病状説明時への同席 がん相談支援センターの入り口に各種がん疾患パンフを設置 センターの案内ミニチラシを入院案内の中に掲載 常時、センターのドアを開放状態に。 直通電話の開設、ホームページへの掲載 院内掲示板へセンターの案内表示 「私の手帳」の説明会実施 	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスへの出席により、医師や他職種と顔の見える関係づくりが出来、病状説明時に声がかかり、同席できた。 患者説明時に同席することで、患者と継続的関わりが出来るようになった。 医師、病棟看護師からターミナル期の患者への在宅療養への支援依頼が増えた。 紹介カードを持参され、「これを見てきました」との相談例。 「ポスターを見ました」との相談例。 入院案内にチラシを入れることで、入院患者全員にがん相談の案内を配布することが可能となった。
<p>②患者サロンの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 患者サロンの各月の予定が入ったポスター作成及び掲示 月ごとのサロンの開催案内をリンクナースにメール配信し、必要時、印刷して入院患者へ紹介してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスターや患者サロン案内を活用して紹介する病棟看護師が増えた。
<p>③地域との連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の挨拶回り（4、5月に52ヶ所） 交流会の企画（7/16）次回12月 地区の介護支援専門員研修会で、センターのPRやセカンドオピニオンについて説明 「私の手帳」の説明会実施 病院所在地の市役所に出向き、センターリーフレットを配布 	<ul style="list-style-type: none"> 連携化がスムーズになった。 「看取り」をテーマにした研修会に医療・福祉施設より多数参加（約100名）。 「私の手帳」を使用したいと在宅医から申し出。

□課題解決に向けた活動の可視化

大項目	小項目
① センター周知・広報	(1) 紹介カード配布
	(2) 病棟カンファレンスへの参加
	(3) 症例検討会への参加
	(4) 医局会PR
	(5) 各病棟研修会でのPR
	(6) リレーフォーライフジャパンかごしまへの参加, PR
	(7) IC同席*条件あり
	(8) パンフレットの設置
	(9) センタードア開放
	(10) 直通電話開設
	(11) ホームページ
	(12) 院内掲示板へのセンター案内掲示
	(13) その他 ()
② 患者サロンの周知・充実	(1) ポスターの掲示
	(2) 各月の予定入りポスター掲示
	(3) 開催案内をリンクナースにML配信
	(4) その他 ()
③ 地域との連携強化	(1) 地域のケアマネジャー等の研修会でのPR
	(2) センターのある地域の役所に出向いた
	(3) 年度当初の挨拶回り
	(4) その他 ()
④ 他職種とのカンファレンスの実施	(1) センターと緩和ケアチームとのカンファレンス
	(2) 他部署との情報共有カンファレンス
	(3) その他 ()

アンケート実施結果

(拠点病院のセンター10ヶ所)

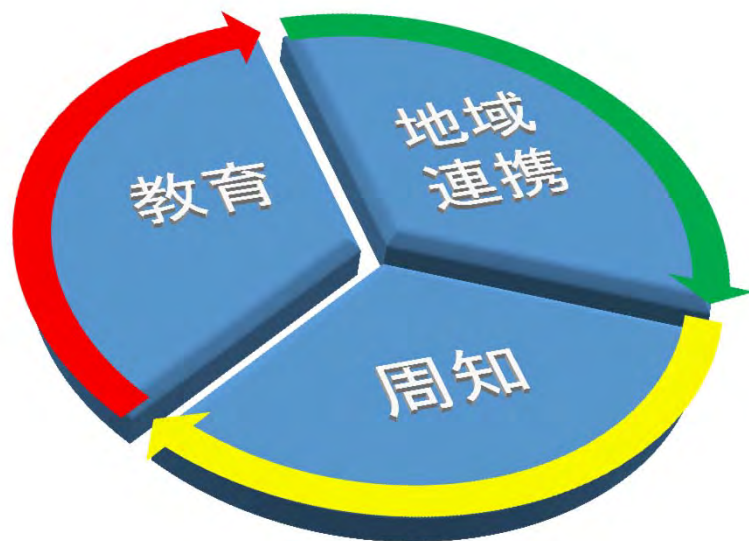


【新たな取り組み】

- 院内の医局会でのPRや市町村の保健師訪問、地域で開催されるケアマネの研修会等でがん相談支援センターの周知活動の実施
- 県委託で実施される「がん相談支援事業」（年3地区開催）にその地域の相談員が出向き、センターの概要等を紹介

院外活動の充実

Plan:平成27年度の取り組み



(教育)

- ・ 4部門合同研修会 (2回/年)

H27年2月

- ・ がん相談支援の事例検討

(地域連携)

- ・ 九州・沖縄フォーラム開催県として活動

- ・ アンケートの実施

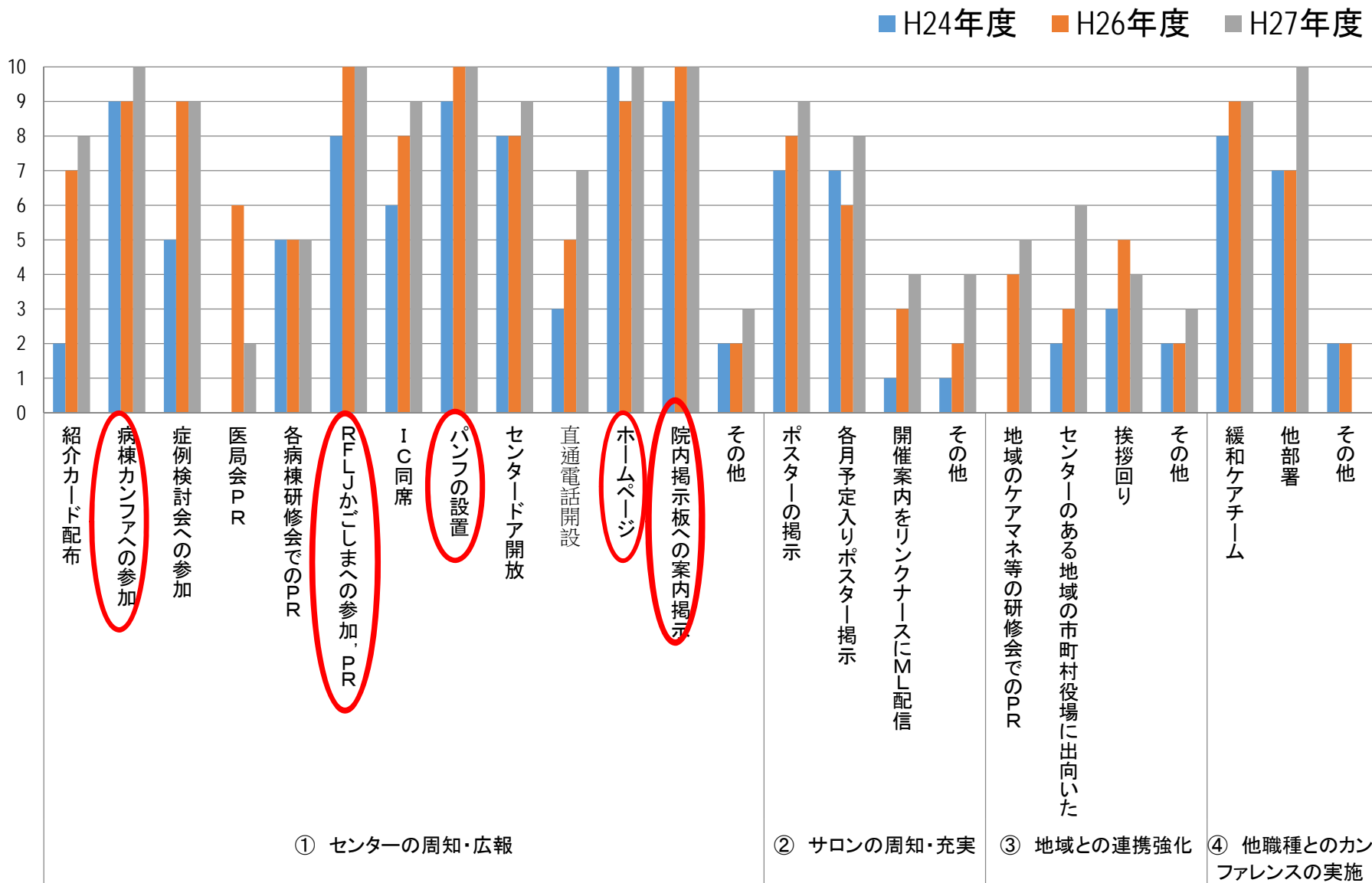
- ・ 「がん医療を語ろうサロン」への参加

(6施設) 【NPO法人がんサポートかごしま
主催】

➤周知活動

- ・ 行政と共働し、ラジオ放送番組へ出演 (H24年から実施)
- ・ 薬局薬剤師の研修会で、がん相談支援センターの広報実施 (10/25)
- ・ 県立図書館の協力の下、がん相談支援センター施設一覧表の掲示 (8/24)
- ・ RFLジャパンin鹿児島への参加：がん相談ブースを展示、がん相談対応
- ・ がん診療連携クリティカルパスにがん相談支援センター施設一覧の掲示
- ・ 施設毎に市民公開講座等でがん相談支援センターの活動内容の周知

DO:鹿児島県のがん相談支援センターの取り組み状況の変化 (拠点病院のセンター10カ所)



Check:評価

1. センター周知：

- 13項目中全施設が実施できた：5項目
(病棟カンファレンス参加、RFL参加、パンフ設置、HPアップ、院内掲示)
- 活動が前年度を上回った：5項目 (ハード面の改善)
(センタードア開放、直通電話開通、HPへのアップ)
- 活動が前年度を下回った：1項目 (医局会PR)

2. サロンの周知・充実

- サロン活動は、全項目とも前年度を上回った
(HPへの掲載、チラシの配布等のPR)

3. 地域との連携強化

- 各施設で計画的に病院訪問活動や地域との交流を実施している施設もあった。

4. 多職種とのカンファレンス

- 緩和ケアチームとの連携はもちろん、他部署との連携強化も図れている施設もあった。

ACT:今後の課題

- 本フォーラム開催で、相談員全員で取り組み、協議の場を多く設けたことにより、相談員同士の信頼関係が深まりチーム強化に繋がった。この機会をチャンスと捉え、今後部門会開催の機会を増やし、相談員同士の語りの場を保ちつつ、更なる相談員ネットワークの強化を目指す。
- 今回のアンケート調査で、地域相談ナビゲーター（地域医療に携わる医師、保健師、看護師、MSW等）との接点を得られたことにより、地域ナビゲーターとのネットワークを維持・強化しながら、がん相談支援センターの利用者増を目指す。
- 他施設の成功事例を共有し、自施設のがん相談支援事業を充実させる。
- H24年の部門会発足時にワーキンググループの活動案もあったが実現せず。今回のフォーラム開催を受けて、各々が役割機能を果たせたことにより、グループ活動が対応可能になったと考え、がん相談支援部門の活動を充実させるために、教育、広報、地域連携の3つのワーキンググループを立ち上げ、より細かなPDCAサイクルに取り組み、がん相談支援部門の発展を目指す。